

緑 ネット通信 No.70

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000 円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090- 2935- 9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

秋の森は 遊びのワンダーランド

藤田 隆

11 月 15 日（日）囲いやまの森は楽しそうな親子の声で包まれた。紅葉、黄葉の舞う秋の森がひととき、にぎやかになった。

輝く季節に見てほしい森の姿

この催しは市内の子育て・外遊びの 9 団体が集まった実行委員会形式の初めての企画。秋の一日、陽ざしが降り注ぐ広場で、それぞれの団体が出品し、子どもも親も遊びに夢中になった。

スラックライン、ブランコ、ハンモック、ドングリクラフト、小石ペイントクラフト、スライムづくり、バランスストーンボやクラフト販売、シャボン玉とばそう、コーヒーとお菓子の販売と来場者の気持ちをぐっとつかみそうな品々が並んだ。

森の中で落ち葉を集めていたのは「森の色合わせ」をしていたネイチャーゲームのチーム。ヘルメットをかぶった森の探検隊チームは森の木々、植物や生き物を観察した。

ステージではオカリナとウクレレのデュエット、子ども落語、大型絵本の読み聞かせ、紙芝居「囲いやまの森のポコ」が舞台を飾り、森はにぎやかになった。

関係者に聞くと、秋の「子どもフェア」がコロナ禍で中止になり「どうしようか」と思案していた時に囲いやまの森の企画が浮かび、団体に呼びかけたら、すぐに手が上がったという。下見や打ち合わせを数回重ねて今回の開催に至ったそうだ。「次は？」の問いに、開催できる状況になればと言いつつ、来年のイベントの組み立てに思いは飛んでいるようだった。



大人も楽しいどんぐりクラフト



スラックラインでぶーらぶら



森の色合わせ

主 催：秋の囲いやまの森で遊ぼう！実行委員会

構成団体：松戸里やま応援団有志、NPO 法人子どもとまつど、まつどネイチャーゲームの会、

学びの駄菓子屋さんのたのじゅく、NPO 法人さんま、日本エコトイ協会、松戸子どもの文化連絡会、まつどでつながるプロジェクト&NPO 法人 MamaCan、絵本の会「たんぽぽ」

松戸のみどり再発見ツアー52

松戸の秘境

千駄堀の森を訪ねる

藤田 隆

10月21日（水）新京成線八柱駅9時30分集合場所に集まった参加者18名、スタッフ10人の計28名で千駄堀の森を訪ねる再発見ツアーがスタートした。

ツアーを始めるにあたり、新型コロナウイルス感染予防対策としてアルコール消毒、非接触型体温計で体温測定、参加票を提出してもらった。

八柱駅から急な坂道を降りると暗渠があり、川の流れていることを伝えると、「へーっ！」という驚きの声が上がった。住宅街の先、坂道の上＝八景台あたりにも樹林地が残っているのが見えた。

千駄堀湧水広場では湧水と池をボランティアが整備しているため、下草もきれいに取り払い気持ちの良い広場だ。ここでは台地から出る湧水を池に引き込み川に流れている話をした。



芋の作の森を案内

次に向かったしんやまの森は芋の作の森から5分ほどの距離。大石代表から挨拶、彦坂さんから森の概要説明があった。

参加者全員が集合し、森のさわやかな空気を体で感じてみようとして深呼吸した。

散策路を案内してもらい、里やまボランティアが入る前にはゴミの山だったという説明に、「森の中はわからないからね」と納得の様子だった。ムサシアブミを見つけたグループは「森の妖精探し」に一つ丸が見ついた。大きな葉と緑の実が森の中でひと際目立っていた。

フィールドビンゴの「わかちあい」をしたところ、9つすべてを見つけた方が一人、7つ、8つと見つけた方が2人、3人いた。フィールドビンゴで森への関心が少し深まったかもしれない。

しんやまの森を後にして、21世紀の森と広場に向かった。21世紀の森と広場の南口そばにある市指定有形文化財の安蒜家の長屋門を見学し、21世紀の森パークセンターのゴールまで歩いた。

参加者から「植物の名前を教えてもらい、興味を持った」、「郊外の山歩きのような感じで歩けた」、「枯葉、落ち葉の上を歩いてやわらかい感触を楽しんだ」、「自然が味わえた」、「近場にこんな良い森があるのが分かってよかった」と感想を寄せてくれた。



千駄堀湧水広場で全員集合

湧水広場からハケの道を通り樹林地の急坂を上った。シイやカシのドングリが時折靴裏にあたり、はじける音が響いた。

湧水広場で、森への関心のヒントとなるように、フィールドビンゴができる用紙を配布した。ドングリ、秋らしいもの、花、トンボなど9つの「森の妖精」を見つけるクイズ。参加は自由としたのだが、ほとんどが興味深く楽しんでた。

芋ノ作の森では井上さんと齋藤さんが森でのボランティア活動、植物など散策路を案内しながら説明してくれた。散策中にもカシワバハグマのほか開花植物が観察できた。



しんやまの森で深呼吸

自己紹介して
いただきました！

金ヶ作野中の森
松戸里やま応援団 樹護の会
代表 中村詔夫



活動を開始して三年目（平成 30 年 4 月開始）を迎えようとしているまだ新しい会です。松戸市の育苗圃の北側に接する 0.5ha ほどの広さで、スギやサワラ等の植栽された針葉樹、高木の照葉樹、またヤマザクラ等の落葉広葉樹等が入り混じった森です。

森は大きく三つのゾーンを設定して取り組みのプランを立てつつあります。一つは比較的明るく森の玄関となる部分で、森の花が戻ってくることを期待しています。二つ目はもともと比較的整備されていて、将来は子供たちと共に森を楽しめるゾーンです。そして三つ目は森本来の姿を残しながら森を生かすゾーンに大きく分けて保全活動を進めています。

また、この森は近隣の民家と接していることもあり、森の中を私道が二本通っています。この私道は徒歩や自転車で昔から生活道路として利用されていることから、森の持ち主様の意向は生活道路を生かしながらの森の保全活動を希望されています。

森は長い間手入れの届かない期間があり、私道脇はポイ捨てのゴミが多く目立ち、奥の一部はゴミ捨



て場の様子をしていました。一年目はほぼこのごみ処理が主たる活動で、今後も引き続き取り組む予定です。また令和元年秋の台風による倒木などの被害もあり、その処理が残っています。こうした中「私道や森がきれいになった。」とお礼の声がかかったり、時にはコーヒーなどの差し入れなどもあり、メンバーの励みになっているところです。まだまだ本来の取り組みには時間がかかりますが、地道な森の保全活動に奮闘中です。

場所 常盤平駅 徒歩 10 分
活動日 毎月 第 1 土曜日、第 3 水曜日
野中の森命名 旧地番の名称・野中を採用

ステップアップ講座

里やま Q 公園と協働の活動

報告 渋谷孝子

11 月 19 日午後、里やま Q の報告会が 21 世紀の森と広場にて行われ、27 名が集った。

会は 2011 年の里やまボランティア入門講座 9 期の修了生で立ち上げ、公園での畑の整備からスタート、のちに縄文の森の整備とイベントの共催が加わり、活動の 3 本柱となった。2014 年に市と交わした覚書は『活動(協働)を通じ相互の信頼関係を構築し、21 世紀の森と広場の魅力と価値を高めることを目的とする。里山 Q を 21 世紀の森と広場の初の「公園ボランティア」とする』というもの。

他の会と違うところは、・地権者は松戸市・チェーンソーや刈払機は使用不可、大きな木の伐採などはすべて業者の仕事・不法投棄や近隣とのトラブルの心配はない・何事もパークとの打合せ・協議などが必要 など。

「整備活動で森がきれいになり野草の花が咲き、来園者に感謝の言葉をもらうことがボランティア活動の喜び。」「イベントで見られる笑顔や笑い声が私たちの勲章」という村上前代表の言葉が印象的だった。



緑のネットワーク情報

10月19,20,21,22,28日 東松戸小2年生「野うさぎの森たんけんプロジェクト」毎日1クラスの子どもたちが



野うさぎの森を訪問、5日間にわたって2年生5クラスが樹人の会の案内で森探検と竹工作を楽しんだ。

11月8日(日)「秋の森をあそぼう～自然観察と収穫体験」紙敷石みやの森と農園でNPO子どもとまつど主催のイベントが行われた。



11月12日紙敷石みやの森に園児が訪問



11月18日ステップアップ講座チェーンソー、刈払機の安全講習があり、高木氏、野口氏の指導で9名が学んだ。



11月19日紙敷石みやの森で園児が森遊びとサツマイモ収穫体験をした。



里やまボランティア入門講座(10/22～11/26全5回)コロナ対策で時間や定員を抑えての実施となった。定員13名を大幅に超える応募があり、無事修了した。また受講できなかった方たちのための一日里やま体験も実施され、12名の参加があった。

～しぜんのコラム 46～

トネリコの冬芽&葉痕

21世紀の森と広場の「みどりの里」には体験用の小さな田んぼが3枚あり、脇にトネリコが列植されている。このトネリコは、公園になる以前からここに植えられており、稲架木(はさぎ)として利用されてきた。トネリコは適度に湿って肥えた土地が好きで、材は弾力性に優れて野球のバットにも使われているから、まさに適材適所である。

ところで、落葉樹は秋に葉を落とし、翌春用の冬芽が作られる。この葉が落ちた痕(葉痕)と冬芽をセットで見ると、顔のように見えるものがある。

特にトネリコの冬芽&葉痕は個性的で、多様な表情をしており面白い。下の写真はすべてトネリコ。21世紀の森と広場に行ったら、探してほしい。

ただ、手が届く範囲の枝が少ない。剪定のときは、下の方の枝もある程度残してほしいものである。



2020.10.31



2020.11.06



2020.11.08



2020.11.10



2020.11.13



2019.04.03

(トネリコの冬芽&葉痕/すべて21世紀の森と広場)

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー53(観察学習会72) 新型コロナウイルスの感染状況次第で中止になることもあります

「歴史あるみどりをつないで初詣・七福神と富士山も」

小金北部に残された緑と冬木立のなか、社寺をめぐるコースを歩き、身近なみどりについて考えます

1月13日(水) 9:30～12:30 (雨天中止)

集合 JR北小金駅改札口9:30 同駅解散 12:30 予定 参加費300円(会員は100円)

申し込み 1月3日受付開始 先着20名 (申込先090-4078-3703 藤田 18時以降)

持ち物等 マスク、飲み物、防寒/雨具、手指消毒品、別添の記入済み参加票。暖かく歩きやすい服装で